

学校だより

7月号

一中の桜並木

令和7年7月18日

「教育目標」

考える人

思いやりのある人

助け合う人

成しとげる人



—中HP

連雀学園三鷹市立第一中学校 校長 宮城 洋之

戦後 80 年の夏に

校長 宮城 洋之

今年には戦後 80 年。実体験としての戦争の記憶を持つ方々は 80 歳代半ばから 90 歳代以上ということになるのでしょうか。一中生の皆さんにとっては遠い昔の出来事なのかもしれませんが、世界に目を向ければこの 80 年間、「戦争」がなかった年はありません。今、この瞬間にも銃声の中で失われていく命があります。節目の年に当たり、「戦後」が日本だけで通用する言葉であるということの意味を一中生の皆さんには考えてほしいと思います。



一中の花壇の向日葵

☆ ☆ ☆

一中学区に近い禅林寺に「三鷹市戦没者慰霊碑」があります。この慰霊碑には三鷹市から出征し、亡くなられた 645 人もの方々の名前が刻まれています。また、第二次世界大戦末期には三鷹市内も空襲の被害を受けました。当時の三鷹市・武蔵野市一帯は一大軍需工場地帯でした。軍用機の製造会社である中島飛行機の工場が現在の都立武蔵野北高校の東側にあり、同社の研究所は現在の国際基督教大学(ICU)の場所にあったため、三鷹市周辺が爆撃の標的となったのです。終戦の年である 1945 年には度重なる空襲のために多くの犠牲者が出ました。その中には、工場に動員された中学生も含まれていたそうです。80 年も前のことではありますが、それはとても身近なところで起きたことなのです。

☆ ☆ ☆

核兵器廃絶と平和への祈りのシンボルとして、広島「原爆ドーム」と共に知られる「長崎平和祈念像」。天と水平に大きく手を広げた人物の座像を思い浮かべることのできる人もいないのでしょうか。この祈念像のレプリカが三鷹市内に設置されていることを知っていますか。杏林大学病院の東側に位置する「仙川平和公園」にある「平和の像」がそれです。実は、「長崎平和祈念像」は、長崎出身の彫刻家・北村西望氏が現在の井の頭文化園内にあったアトリエで制作し、長崎まで運んだものなのだそう。仙川平和公園にあるのは平成元年に三鷹市の百周年事業の一つとして「長崎平和祈念像」の原型をもとに制作された 4 分の 1 サイズの像で、建立にあたっては多くの三鷹市民から募金が寄せられました。

☆ ☆ ☆

戦争が起きる背景には領土や資源の争奪、民族や宗教の違い、歴史的な経緯、政治的不安定など、様々な要因が複雑に重なり合っています。ただ、誤解を恐れずにシンプルに捉えるならば、どの時代の戦争も根本にあるのは自己中心性や不寛容が生み出す対立だと言えるのかもしれませんが。であるならば、私たちはどのような社会を築いていく必要があるのでしょうか。戦争を経験した世代の皆さんは年々少なくなっていく中で、私たちは 8 月が来るたびに「戦争の惨禍を繰り返さない」「戦争の記憶を風化させない」ことを誓い続けてきました。終戦から 80 年が過ぎた今、「戦後」を生きる私たちに求められるのはどのような「未来」を作っていくかなのだと思います。戦後 80 年というこの節目の夏に、一中生の皆さんもぜひ考えてみてください。



三鷹市戦後 80 年平和事業「中学生長崎市平和交流派遣事業」

市の戦後 80 年平和事業として、市内各中学校代表の中学校 2 年生が長崎市を訪問することになりました。長崎では、現地の中学生との交流や平和関連施設の視察等を通して、恒久平和について学び、その成果を広く発表することとしています。一中からも男女 1 名ずつの代表生徒が参加して 7 月 29 日(火)～31 日(木)の日程で長崎を訪問する予定です。派遣後は市内で報告会が行われますが、一中校内でも報告の機会を設ける予定です。